

旗

フォト劇場 (53)

写真が生まれるものがたり

旗の波越えて帰らん鷗たち運動会は終はりに近し

矢野博子

海に近い函館市は、ときおりカモメが街なかの空に舞うことがある。迷っているのか、楽しんでるのか、五月晴れの青く澄む空に白くまぶしい。あたかも運動会を見ているかのように。

万国旗見れば思ふよ筋ジスの教へ子ひたすら走り
しことを
滝口良子

小学校の運動会、二年生の筋ジストロフィーの少年が五十メートル走に出た。会場全体の応援を受けて、片足をひきずりながら完走した。それから二十数年後に逝ってしまった。万国旗を見れば、今もいつも思い出す。



戦火なほしづまらぬ世の風のなか四辺ゆがませて
万国旗揺る
河合育子

戦争が終わらない。報道が少なくなっただけ
ど、戦禍の人々を思う。青空の万国旗は平和
の象徴だ。大国も小国も同じ大きさで並び、
同じ風に吹かれ翻る。空の青さがたまらなく
切ない。

アントワープ市庁舎にあがる万国旗ひときわ日の
丸は輝いていた
秦 順之

五十数年前に住んでいたドイツで万国旗を見
た事はない。三十年前に住んでいたベルギー
ではアントワープ市庁舎が万国旗を掲げてい
た。日の丸は一際美しかった。今でも万国旗
を見ると無意識に日の丸を探している。